

須賀川市立義務教育学校「稲田学園」学園だより

稲雲

令和4年 8月26日発行

第 8 号

発行者：校長 小貫 崇明



○2学期が始まりました！

35日間の長かった夏休みが終わり、8月25日（木）から2学期が始まりました。始業式では校長から、夏休み中の明るいニュースなどを紹介し、2学期もたくさんの良いニュースを稲田学園から発信しようと話しました。また、3人の児童生徒から2学期の抱負が発表されました。その中から3年生の児童の発表内容をご紹介します。



2学期のめあて

3年女子児童

わたしが2学期にがんばりたいことは、漢字です。3年生になって読める漢字がふえると、ニュースの意味が分かったり、少しずつ新聞が読めるようになってきたりしました。勉強してよかった、と思いました。漢字コンテストではいっしょうけんめい練習して、合格することができました。2学期も分からない漢字があったら調べたり、練習したりしてきちんとおぼえられるようにしたいです。

また、みんなにやさしくできるようにしたいです。前、友達が勉強でこまっていたときに、「だいじょうぶ。おしえてあげる。」と言ったら、こまっていた友達が「ありがとう。」と言ってくれました。

そのときわたしは、やさしくすることはとてもよいことなのだと思います。みんながありがとうと言ってくれるだけで、うれしい気持ちになります。

2学期はこの2つのことをがんばって、たのしくすごしたいです。

始業式では、全校児童生徒が各代表の発表をしっかりと態度で聴いていました。2学期も掲載した発表に表現されているように、子どもたち一人一人の優しさがあふれる稲田学園にしていきたいと思います。

○須賀川市少年の主張大会で優秀賞受賞

8月2日（火）、須賀川市民交流センターtetteで行われた第19回須賀川市少年の主張大会には、稲田学園からは9年女子生徒が出場しました。演題は「将来への歩み」で、自分が大けがをした際の入院体験や身近な家族の入院等を通して、看護師の存在のありがたさ、素晴らしさを強く感じ、将来の夢として自分も看護師を目指そうと強く決意したことを堂々と発表しました。審査の結果、優秀賞に輝きました。入賞した5名の作品は県大会事務局に推薦され、県大会に出場する作品が後日決定されます。



○開校記念コンサートが1年越しに実現

本校が義務教育学校となったことを記念して昨年度計画していた「開校記念コンサート」はコロナ対応のため延期を余儀なくされてきましたが、7月14日（木）に1年の時を経て実施することができました。

演奏してくださったのは、もちろん本校の校歌「HOME」の作曲者でもあるバイオリニストのNAOTOさんです。会場となった須賀川市文化センター大ホールで、NAOTOさんと仲間のミュージシャンの皆さんが演奏する心地よいサウンドに酔いしれました。また、特に私たちのため特別に「HOME」を演奏してくださいました。子どもたち、教職員、そしてご参加いただきました保護者、ご家族の皆様も手拍子やジャンプで、会場は一体感、高揚感でいっぱいになりました。演奏後には、生徒会長の9年男子がNAOTOさんに花束を贈呈しました。子どもたちにとって最高の思い出になったと思います。

また、NAOTOさんは演奏会の3日前に稲田学園に来校して本校音楽部と交流してくださいました。NAOTOさんの子どもの頃のお話や練習でのエピソードなどを披露してもらい、音楽部の子どもたちは楽しい時間を過ごすことができました。



○夏季休業明けの新型コロナウイルス感染拡大防止の徹底について

8月12日に「福島県医療非常事態宣言」及び「福島県感染拡大警報強化版（B A.5対策強化宣言）」が発出され、学校生活に関しては以下の点を徹底するよう示されました。

- （1）登校時及び授業時間中等、あらゆる機会において体調が悪いときは無理をせず療養し、医療機関で受診すること
- （2）発熱や倦怠感、喉の違和感などの風邪症状があり、普段と体調が少しでも異なる場合には、児童生徒・教職員ともに自宅での休養を徹底すること。

学校といたしましては、第7波をこれ以上拡大させないため上記の防止策を徹底してまいりますので、保護者の皆様のご理解・ご協力をよろしくお願いします。

★言葉と生きる(8) 「青春って、すごく密」

今年の甲子園（全国高等学校野球選手権大会）で優勝した仙台育英の須江航監督が、決勝戦後の優勝インタビューで次のように話した内容が話題になっています。「入学どころか、おそらく中学校の卒業式もちゃんとできなくて、高校生活はなんというか、僕たち大人が過ごしてきた高校生活とまったく違うんですね。青春ってすごく密なので、でもそういうことは全部ダメだダメだと言われて、活動していてもどこかでストップがかかって、どこかで止まってしまうような苦しい中、本当に諦めないでやってくれた。でもそれをさせてくれたのは僕たちだけじゃなくて、やっぱり全国の高校生みんなが、本当によくやってくれた・・・」。

私はこの言葉を聞いて、「学校もすごく密、あれもこれも中止という中で、子どもたちは本当によくやってきてくれたなあ・・・」とこの2年半を振り返ったのでした。